

研究・調査報告書

報告書番号	担当
4 2	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol and tobacco use, and cancer risk for upper aerodigestive tract and liver. 上気道、上消化器、肝臓の癌の危険性と飲酒や喫煙の関係	
執筆者	
Pelucchi C, Gallus S, Garavello W, Bosetti C, La Vecchia C.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Eur J Cancer Prev. 2008 Aug;17(4):340-4. Review.	
キーワード	
上気道癌、上消化器癌、肝臓の癌、飲酒、喫煙	
要 旨	
<p>上気道、上消化器 (つまり口腔内、喉頭、咽頭、食道)、肝臓の癌の危険性と飲酒や喫煙の関係について再検討した。飲酒と喫煙は上気道と上消化器癌の主な危険因子であり、先進国の症例の大部分 (約 3/4) に関連している。アルコール消費総量は飲酒関連のリスクとしては最も強力な決定因子であるが、飲酒関連の危険性と飲酒の存続時間のパターンについてははっきりとした結論が出ていない。喫煙に関しては喫煙期間・喫煙量ともに上気道と上消化器の癌に対し重要な影響がある。飲酒と喫煙両方にさらされると、その影響力は癌発生に対し倍数的に増加する。飲酒と喫煙は肝癌の原因にもなるが関連性はあまり強くなく、飲酒・喫煙により起こる肝癌の割合は、飲酒・喫煙により起こる上気道と上消化器の癌に比べる少ない。飲酒と喫煙の相互作用については報告があるが、その問題点については十分には評価されていない。</p>	